第151号

発行:五島高校新聞部



五島高校のねぶた

など、

で見いた。
安全第一をなったん動きを定めたん動きを定めた。

坂を

心の再完るつがよでせ

を過ぎ

· つカー たー 方向

らけにせたつ なれ注なをけ屋あし街あ意移きは

で、直前まで中間テスよりも開催が早まった。 今回のみなと祭りは が、直前まで中間テス が、直前まで中間テス が、直前まで中間テス が、直前まで中間テス が、直前まで中間テス が、直前まで中間テス が、上で、を がりない。 で、直前まで中間テス が、と祭りは がという。

な演奏を披

るなりし

ち

 \equiv

中年より い十月二日 なと祭りが即 たが夜の福江の いた。 を曳いて、ねぶた を曳いて、ねぶた を曳いて、ねぶた を曳いて、ねぶた を曳いて、ねぶた でして運動部女子が中心 では会対 が、皆で が、皆で

だいた。 ないとが中心となった 大公とバラモン」 大公とバラモン」 大公とバラモン」 大公とバラモン」 大公とバラモン」 大公とバラモン」 うのし 福雰て うを を中心となって、祭り上で協力 げそ街漂り力し

ノレーキを-・ドが出過ざい が坂では力な

マーチングを披露した吹奏楽部

生徒や運動部の女子の生徒生徒や運動部の女子の生徒特って堂々と歩いた。 最後にはねぶたを元の倉庫に戻し、今年のねぶたは庫に戻し、今年のねぶたとからこそ成功した今回のみなと祭り。福江た今回のみなと祭り。福江た今回のみなと祭り。福江が校内での活動にも役立のイベントに参加した経験の付がが、例の生産を受り上げる年に一度のイベントに参加した経験のイベントに参加した経験のイベントに参加した経験のはずだ。(槻) を繰り返し演奏した。また、生徒会に所属するいた。 **生**動部の女子の生徒 生徒会に所属する た。沿流をでる。 と、たの食 をし

を

て音の道

- いて二 2 - ドレイ 0 る人 4 。に 0 るお

地は推そ年後の担し方の 生徒数 る。 で わし そまる例かっうで全えりは

は、今回のに集ったに集った

 $\overline{\mathbf{M}}$

伝

統 芸能

五.

人たちによって、毎 で伝えられてきた。 ではなられてきた。 で伝えられてきた。

大切に守った。それぞれ毎年同じ形

伝統

がの

減

0

ま

ま

ま

で

さ

芸さなはに能んか、集

変 る。

な

えがエ

夫を凝らし、 がら受け

企画 こ の

どちら

Ę

となって活動となって活動となって活動となって活動といった学ー

いていると

には昔からる。ころのた伝

る統芸能 それら

た輩が中、

心と

た後輩が

う物は動いを

良来い年

さら

を作

そ

り に 出良

も体な減校る なないく フすればいいばのでいく中なっていく中なり巻く状い。 くなってしまってしまうと、カグをといった五ってしまうと、ってしまっと、ってしまっと、 育 中 まうかも、た五高の 7 で、沢 そが 五高 。にれ厳 いば改 そはでし 知を伝祭それ得統やう かい善 ども ないし

大いくにはどうすればればならない。 「光り輝く未来の形の一つに、 で、大いくにはどうすればならない。 「光り輝く未来の形の一つにが、そして形を変えている。 でが、そして形を変えている。 でが、そして形を変えている。 でが、そして形を変えている。 でが、そして形を変えている。 でが、そして形を変えている。 でが、そして形を変えている。 っ伝 こ々 え 伝 7 つの ほとれの統 ないが光そ ` 90 ししか協 がる でををは 言にく イキカ

伝統芸能パフォーマンス

題保る。年研障に問

. 国

五人あよ所口社で4い危そ

いてら力そら伝ず輝形

題

口るそは問会あ0

は五四

受 先 けも

高 高 万 在 研

十のでお究人立

1 - ルに で名にもりー・ とした覇気の とした覇気の とした覇気の とした覇気の とした覇気の としたのも。田 日十 (をとも) メ 火月 にルモ曜

(写真提供:永峰由美さん)

える。

統

機の

。が伝し

ては

けの

る

0

くけ夫

継

が

う伝な

言のれれ毎

一年 年半看芸 護 主員で決立 が持つろう が持つろう が持つろう がおかる返す がおかるのもの がおかるのもの がある返す がおかるのもの があるのもの。 があるの。 がある。 が。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がもの。 がもの。 が。 がもの。 が。 がもの。 が。 がもの。 がし。 がもの。 がし。 がしる。 がし。 がしる。 がし。 がもの。 がし。 がし。 がし。 がしる。 がし。 あ の谷 決うろう 子 た。 るで人礎 行今の実さ は事が生入雰 動ま命習ん そナススを凛の場囲 のく

て分こ師難れイは人ぐ目練 い生けが ほのとへをかチな生ら的が ころのこのでは、たいでは、となっていく。どんを乗り越え一人前の季から戴帽生は、失敗やなりません。」これは生をうやむやにすごしらしている意志のうちいの要です。まずまずが必要です。まずまずが必要です。まずまず つつ越帽 と語 す生 院業ま 実やす。 きる 0 (真) 習校 っに内 臨 実 ま 。はしちぐず ばずん看や み習 で つ自な護困こナてにらの修 たを受



ろうそくを持ち整列する戴帽生

旗を持ち先頭を歩く生徒会役員